

21世紀に
伝えたいの魅力 No.32

ちば

海岸植物が白砂を飾る

平砂浦海岸



館山市

淡いピンクの花を次々と咲かせるハマヒルガオ

どんな植物が見られるの？

南房総の海岸線は岩礁と砂浜が交互に短く連なり、変化に富んでいます。館山市の南西に位置し、太平洋に面した平砂浦海岸はゆるやかに弧を描いた長さ約5km、幅約60mにわたって続く砂浜です。砂浜に沿って緑濃いクロマツ林が続いています。平砂浦海岸はいなげの浜(千葉市)とともに「日本の白砂青松100選」に選ばれています。



←コウボウムギ(カヤツリグサ科)
草丈は低く、太い穂が特徴。名前は地下茎の細い毛を弘法の筆にたとえたもの。



←ネコノシタ(キク科)
猫の舌にたとえたらざらざらした葉が特徴。花の形から別名「ハマグルマ」。



ハマニガナ(キク科)→
地上に葉と花しか出さず、砂に埋もれてもすぐに葉を伸ばす。葉の形から別名「ハマイチョウ」。



平砂浦海岸北部のサイクリングロード

初夏を迎えた海岸では砂丘に群生するハマヒルガオの淡いピンクの花が咲き出します。なだらかな砂の斜面にはコウボウムギやネコノシタが群落をつくり、砂の中から顔を出しているハマニガナ

の黄色い花も目立ちます。やや内陸よりになるとケカモノハシやチガヤ、ハマゴウ、砂の飛散を防ぐため植えられたハマニンニクなども見られます。波打ち際近くの、砂の動きの激しい場所には、葉の先がとがったオニシバが多く見られます。これらの植物は夏の強い日射しや熱い砂、潮風や砂の動きなどの厳しい環境に適応した特徴もっています。地上部分の丈を短くして茎や根を地中深く張って水分を吸い上げたり、小さく厚みのある葉で水分の蒸発を防いでいます。

平砂浦海岸から1kmほど内陸に砂山(標



砂すべりや自然観察が楽しめる砂山



県立館山野鳥の森から眺めた平砂浦海岸。帯状に見える緑がクロマツ林

高90.2m)があり、海岸から吹き上げられた砂がたい積しています。広い砂地の斜面では砂すべりが楽しめます。ここでもコウボウムギやネコノシタ、ハマゴウなど平砂浦海岸と同じ海岸植物が多数見られます。

平砂浦海岸と平行して走る房総フラワーライン沿いには南国ムードいっぱいの千葉県南房パラダイスや館山ファミリーパークなどの観光施設があります。周辺一帯は年間を通じて温暖な気候のため、早春の花摘みでも人気の観光地となっています。



■交通 JR館山駅からバス約45分

★館山市観光協会 ☎ 0470-22-2000

H・P <http://www.awa.or.jp/home/tkk>

白いハマヒルガオはなぜ咲いた？

ハマヒルガオは平砂浦海岸を代表する植物の一つで、つる性の多年草です。アサガオと同じヒルガオ科で、毎日別の花が



次々と咲いていきます。厚く丸い葉はクチクラという透明な細胞膜で覆われ、水分の蒸発を防ぎ、潮風から身を守っています。昨年九十九里浜の剝金海岸(長生郡白子町)で白いハマヒルガオが見つかりました(写真)。花の色素をつくる遺伝子が突然変異を起こしたと考えられています。

ところで自然界で最も多い花の色は白で、次いで黄色、青や紫色です。白やクリーム色がかった花の多くには、フラボンやフラボノールという色素が含まれています。色素自体は無色が淡黄色ですが、花びらの細胞と細胞のすき間に入っている小さな空気の泡に光が当たって乱反射を起こし、白い花に見えます。

国蝶「オオムラサキ」見たことある？

大小合わせて13の温室がある千葉県南房パラダイスは、色とりどりの熱帯植物や動物との触れあいが楽しめます。蝶館ではオオゴマダラやリュウキュウアサギマダラなど約10種類300頭の蝶を放し飼いにしています。2001年(平成13)には国蝶のオオムラサキの羽化に成功しました。

オオムラサキは日本のタテハチョウ科の中では最大の蝶で、大きさは約10~12cm。



羽の表面はオスが鮮やかな青紫色、メスは黒で、白い



青紫色の羽が美しいオオムラサキのオス

クロマツ林の役割は？

砂浜の背後に延長約2kmにわたって帯状に広がるクロマツ林があります。ゴミやマサキなども混じった砂防林で、広さは約



半世紀近く経ち、立派に成長したクロマツ林(左)と平砂浦砂防林造成記念碑(右)



120haです。冬の間、平砂浦海岸には海から猛烈な西風が吹きつめます。巻き上げられた大量の砂は田畑を覆い、川の流れさえも変えてしまうほどで、長年地元の人々を苦しめ、平砂浦は別名「鬼ヶ浦」と呼ばれていました。そこで県は1949年(昭和24)から10年間にわたって砂を抑え、風を防ぐために砂防林の造林事業を行いました。今ではクロマツも5~10mほどに成長し、役目を果たしています。

斑点があります。はばたきは機敏で滑空するように飛びます。北海道から九州まで広く生息し、エノキやクヌギ、コナラなどの雑木林にすんでいます。都市化で雑木林が減ってしまい、局地的に生息地が少なくなってきています。1957年(昭和32)に日本昆虫学会で国蝶に選定されました。

◆千葉県南房パラダイス ☎0470-28-1511

H・P <http://www.awa.or.jp/home/nanpara>

交通/JR館山駅からバス42分

開園時間/9:00~17:00 年中無休

入園料金/大人800円、中学生400円、小学生200円

◇◇館山湾に新しい海辺の魅力◇◇

穏やかな水面の美しさから「鏡ヶ浦」とも呼ばれてきた館山湾。現在、館山市は館山湾の魅力をいかした新しい海辺のまちづくりを進めています。館山港が国の「特定地域振興重要港湾」に選定されたのを受けて、海の環境を守りながら港を観光やレクリエーション活動の拠点にし、地域の活性化を図ります。港には大型の客船や帆船などが接岸できる多目的観光棧橋や交流・にぎわいの空間なども計画されています。また、海に親しむさまざまな体験イベントが好評の「たてやま海まちフェスタ」も毎年開かれているほか、今年8月8日には大型クルーズ客船「にっぽん丸」が館山港に初寄港します。



たてやま海まちフェスタ・小型ヨット乗船体験(上)と多目的観光棧橋のイメージ(下)



ふるさと自慢！伝統的工艺品の技と美を再発見

今年3月、100年以上の歴史をもつ房州うちわが「経済産業大臣指定伝統的工艺品」に変わりました。千葉県内では初めての指定です。

房州は「京うちわ」の京都府、「丸亀うちわ」の香川県とともにうちわの日本三大産地です。

館山市を中心に7事業者、70人が年間約20万本を生産しています。

丸柄で半円の格子窓が特徴で、形

は卵型や丸型など大きく分けて4種類あります。原料の女竹(篠竹、大名竹)は、乾燥して虫がつかない10月から1月にかけて安房郡市一円で伐採されます。1本の竹から2、3枚のうちわが作られます。和紙だけでなく浴衣の生地を貼ったり、時代に合わせてより装飾的なものも作られています。

◆千葉県では伝統的工艺品の育成と振興のため独自の基準を設けて、14種115件を県指定の伝統的工艺品に指定しています。

■県内各地の伝統的工艺品を見る／買うには？

●千葉県観光物産センター

千葉市中央区富士見1-12-7 ☎ 043-227-8022

●プレナ幕張内「物産工芸館」

千葉市美浜区ひび野2-4 ☎ 043-299-0377

●東京湾アクアライン・海ほたるパーキングエリア内「グラン・ショップ」

木更津市中島地先 ☎ 0438-41-6226

★千葉県物産協会 ☎ 043-227-8022

技アリ！

房州うちわができるまで



- ①竹選別
- ②皮むき
- ③磨き
- ④水つけ



- ⑤割竹
- ⑥もみ
- ⑦穴あけ
- ⑧編竹
- ⑨柄詰
- ⑩弓削
- ⑪下窓
- ⑫窓作り



⑫窓作り

⑮焼き 骨の曲がりを直す



⑬目拾い

⑭穂刈り

⑮焼き

⑯貼り

⑰断裁

⑱へり付

⑲下塗り

⑳上塗り

㉑仕上げ

館山市内の千葉県指定伝統的工艺品

- 房州うちわ
- 唐棧織…自然染料で染めた木綿糸で織る。紺地に赤などの縞柄が特徴。
- 綴錦織…爪や櫛で織るため別名「爪織り綴れ」と言われ、金糸や銀糸を使って模様を描く。
- 安房竹工芸品…竹の素朴さと独特の質感を生かした茶道具。
- 切箸(金切鉢)…「切箸」は、はさみの古称。火づくり加工という技法で作られる。

★房州うちわ振興協議会（館山市役所商工課内）

☎0470-22-3111

トピックス☆たてやま

夏の風物詩として定着してきた大学生のフラメンコ大会も今年で9回目。迫力の花火大会と情熱的なダンスの競演が今年も見られます。

◆花火とフラメンコ 8/8 18:30～北条海岸

◆第9回全国フラメンコフェスティバル
8/10 14:00～千葉県南総文化ホール(入場無料)

★館山市教育委員会生涯学習課 ☎0470-22-3698



写真提供/山井 廣 千葉県立中央博物館 千葉日報社茂原支局 千葉県南房バラダイス 館山市港湾観光部海辺のまちづくり推進課 館山市経済環境部商工課 千葉県商工労働部観光コンベンション課 館山市教育委員会生涯学習課

2003.5（次回発行/6月24日）